

国際社会 抑止シグナルを

東京大教授(中台関係論) 松田康博氏



考論

今月、延べ100機以上の中国軍機が台湾の防空識別圏(ADI Z)へ進入した。狙いは何か。

◇

今回はいずれも中台の中間線を越えずに防空識別圏の南西側をかすめただけだった。ただちに軍事的な衝突につながるような動きではない。しかし、長期的に見ると、非常に重要な動向とも言える。実戦では数百機が台湾の軍事拠点がある東側に南回りで迫り、巡航ミサイルなどで攻撃することが想定される。今回はそれが可能なこと

を見せつけようとしている。

また頻度を上げることで台湾の防空識別圏をなきものとし、士気をくじく狙いも透ける。米台接近への警告や、日米英などの共同訓練への反発などが考えられるが、中国は本当のところを言わない。

色々なことを想像させ、台湾や米国に自己規制をさせたいからだ。

防空識別圏への進入を繰り返すことで、偶発的衝突への懸念に加え、武力行使も少しずつ現実味を帯びてきていると言える。故意に台湾に軍事圧力をかけることは非生産的であって、やめるべきだというシグナルを国際社会は出すべきだ。

(聞き手・小早川遥平)